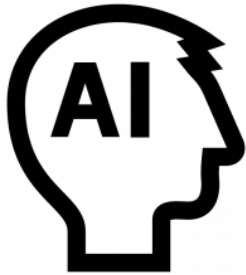




みちくさ

放浪篇 No.12 平成30年2月1日

AIがどんどん生活に浸透してくるってこと？



TVを見ていたら、家電ショーみたいな場で様々な製品を紹介している場面が写っていました。なにやら iPad のような液晶画面を正面にくっつけたロボットが登場し、注文に応じてコーヒーを淹れてくれるようです。番組は AI がこんなところまで浸透して来ているという紹介でした。ちょっと待ってよ、それって何が AI なの？単なるオートメーションで単純作業をこなしているロボットじゃないの。つい、つっこみをいれてしまいました。

次に、コンビニで棚に置く商品の発注を AI がしているということでした。なるほど、週ごと、月ごとの売り上げを出して、そこから人気商品を割り出し、それを発注するという作業を AI がやってくれたら、確かに助かるなあ。でも待ってよ、これって AI なの？単にエクセルを使って誰かがやれば済むことで、人件費を削減することでは意味があるのだろうけれど、このレベルで AI と断定していいのだろうか？流行を感じて、これが当たるのではないかと新商品を入れたり、偶然では無く意図的に商品の発注などを操作できたりするところまで来ているのであれば AI と認めますけれどね。

「シンギュラリティ」とは、技術的特異点といわれて、人工知能が人間の能力を完全に凌駕することをいうそうですが、専門家によると 2045 年くらいに達成するのではないかとされているようです。あと 30 年くらいでそれがやってくるとしたら、生きているのであれば見てみたいという気がしますね。

とにかく、来る未来は、機械がどんどん私たちの仕事を奪っていくだろうということは想像できます。私のような定年退職した人間は、もう勤めるところもなくなり、ただ老いていくのを待つしかないのかもしれないかもしれません。

そういえば、「現在あって、近い将来無くなる仕事」というのもありましたね。かろうじて小学校の教師は残っていたようですが、単純作業など、どんどん仕事が無くなってしまいうのかも知れません。

AI ではないけれど、ホームスピーカーに話しかけて、部屋の電気をつけたり、好きな曲をかけてくれと頼んだり、そんなことはもう普通に出来るようになっていきますから、AI が完成したとき、「そんな単純なことは、生物であるお前がやれよ」と反論されたらびっくりするでしょうね。そればかりか、人間という存在は害を及ぼす敵とみなし始めたら、それはターミネーターの世界になります。まあその頃までは生きて居ないだろうから、心配することはやめますが。

雪かき

10月に怪我をし、そのため運動する回数が減ってしまいました。メタボ対策はまったく気にはしていませんが、健康のためにウォーキングを再開させました。主治医からは朝はなるべく運動をやめなさいといわれている関係上、夕方に帰ってから動くようにしています。

現在住んでいる町内は一丁目から四丁目まであります。その一番外側を歩いて帰ってくると、だいたい40分で5キロくらい歩けるのです。

ところで、今年は積雪の回数が去年より多いようで、まだ道路には所々雪が残っています。ひどいところになると圧雪で氷のようになっていきますね。そういうところを歩くのは、雪国生まれで慣れてはいるのですが、転ばないようにと「ドキッ」とすることももちろんあります。

町内を貫くバス通りには当然除雪車が入り、すぐに雪は溶けますが、問題なのは歩道の雪です。積雪があった日の朝は、子どもたちが通学するのに苦労しています。大人では積雪している歩道を避けて車道を歩くケースを目撃することもありますね。大変危険です。

そもそも、町内でも回覧していますが、自宅前の雪は自分で除雪するべきだと思います。歩いていると、南側で日が当たるところは雪が溶けていますが、北側の道路はほぼ大部分と言っていいほど凍っています。でも北側であっても、きちんと除雪しているおうちの前は、日中の気温で雪が溶けて無くなっているのです。こういうことを書くと、「うちは共稼ぎで忙しいのだから除雪なんてしている暇はない」といわれそうですね。でも、そこのおうちのお子さんが、通学で歩道の雪に苦労していたら、どう思われるのか。大変気になるところです。

年寄りのウォーキングのためにではなく、学区内の子どもたちの安全のため、せめて自宅前の道路と歩道の雪をかきまじょうと、声を大にしていいたいです。

